



## 世界一のホイッスル

校長 佐々木 秀之

約一年前の7月の学校だよりのタイトルは「サッカーボールと算数」でした。黒塗りの五角形と白塗りの六角形のサッカーボールや、この6月に開催されるW杯で使用されるパネル同士を特殊な接着剤と熱によって接着したサッカーボールは、「どうすれば真球に近いボールを作ることができるのだろう」「どうすれば選手が思い通りに蹴ることができるボールになるのだろう」という日本の技術者たちの疑問や追究が生み出したものです。



切頂二十面体



サッカーボール



もう一つ、日本が生んだW杯で使用されるものがあります。

それが「世界一のホイッスル」です。その金色または銀色に輝くホイッスルは、少し前まで、私の机の中にもありました。それを手にしてみたいと思ったのは、数年前、サッカーの最高峰W杯の大観衆どよめくスタジアムで使われていたことを知ったことがきっかけでした。

「世界一のホイッスル」は、かつてハーモニカを作っていた日本の小さな工場で作られています。ハーモニカ作りの技術とメッキ塗装を駆使し全く音が漏れません。中に使用されているコルク玉は真球に近く、表面がきめ細やかで、水分がしみ込まないように塗装されており、音が割れず、審判が音に強弱をつけて意志を伝えやすく、選手にとっても、十万人の大観衆の誰にでも心地よい音が響くようになっています。

現在、一般にサッカー・バスケットの国際大会で吹かれている笛はプラスチック製で、中にコルク玉がなく、強く吹かなければ音が出ないようにになっており、プレーを止めるために人間が一番不快に感じる音域で作られています。一流選手達の技術、レフリーが鳴らす音色は、日本の技術者達のたゆまぬ追究によって支えられているとも言えます。

一昨年、「世界一のホイッスル」を制作していた工場はなくなり、今後そのホイッスルを手に入れることはできなくなってしまった。しかし、昨年、そのホイッスルを首から下げている先生を見かけました。「いいホイッスルですね。自分で買ったのですか?」と尋ねると、「いえ、教育実習の時の指導教官の先生からいただきました」という答えが返ってきました。私は、「素敵なお先生ですね。もう手に入れることができないホイッスルです。大切にしてください」と伝えました。心地よい音色をプレゼントされた先生は、きっと子供たちが生き生きと目を輝かせる授業をなさる先生に違いありません。お会いしてみたいになりました。

### 平日夜間および休日の電話対応について

練馬区立学校（園）においては、令和元年6月中旬以降、平日夜間および休日の電話対応を応答メッセージとし、教員の勤務時間外の電話対応の縮減を図ることとなります。開始日および実施時間帯については後日あらためてご連絡いたします。

保護者の皆様および地域の皆様にはご不便をおかけすることもあるかと存じますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。